

佐倉アクティブ「チバニアンってなんだ？」

1年生普通科2名、理数科5名、計7名は、10月24日(月)の放課後に、野外実習の準備として事前学習を行いました。まずチバニアンに関する基礎知識を得るため、理数科3年生が地学の授業で作成した、チバニアンについての資料と説明動画を視聴しました(写真①)。次に、目の粗さの異なる紙やすりを使って、指先の感覚で砂岩か泥岩かを判別するための粒度表を作成しました(写真②)。チバニアンの模式地付近の地層は天然記念物であり、岩石の採取ができないので、現場で地層に触って判別できるようにするためです。最後に、銚子の海岸で採取した岩石に触れ、粒度表と比較して岩石の種類を判別し、その岩石が元々あった地層について考察しました(写真③④)。

11月5日(土)の野外実習当日は、まず粟又の滝までバスで行き、地形を観察しながら、そこに滝がある理由を考えました。次に、養老溪谷の中瀬遊歩道までバスで移動し、旧弘文洞跡から観音橋まで歩きながら、湿った露頭と乾いた露頭がある理由を考えました。生徒たちは粒度表を用いて砂岩か泥岩かの判別を行い、地形や地層の特徴とどう関連しているのかを考察していました(写真⑤～⑧)。午後はチバニアンビジターセンターへ行き、NPO法人田淵チバニアンズのガイドさんの案内により、チバニアンの模式地の露頭で、白尾火山灰層や生痕化石などを観察しました(写真⑨)。

今回の「佐倉アクティブ」に参加した生徒は全員、8月または10月に行われた内浦山県民の森でのSSHサイエンスツアーにも参加しており、両野外実習を通して、千葉県の大地や自然について理解を深めることができました。



↑写真① ↓写真②



↑写真③



↑写真④ ↓写真⑤



↑写真⑥ ↓写真⑦



↑写真⑧ ↓写真⑨

